

彙 報

会 長 窪 蘭 晴 夫

——常任委員会——

2015 年度第 1 回常任委員会

日 時：2015 年 5 月 17 日(日)12:00～18:00

場 所：ホテル新大阪 403 会議室

出席者：窪蘭晴夫(会長), 有田節子, 井上 優, 上山あゆみ, 加藤重広, 小泉政利, 小林正人, 斎藤 衛, 吉田和彦(以上, 常任委員), 野田尚史(事務局長)

オブザーバー：金水 敏(編集委員長), 青木博史(大会運営委員長), 須田孝司(広報委員長), 加藤重広(夏期講座委員長), 金城由美子, 内藤真帆(以上事務局委員)

[報告事項]

(1) 今期の組織・役員について

- ・今期の組織・役員が資料によって確認された。

(2) 今期の目標

- ・以下の 3 点を今期の目標とすることが報告された。
次世代の言語研究を担う若手研究者の育成強化
優れた研究の世界への発信と, 海外の学会・研究者との交流
創立 80 周年(2018 年)記念事業の準備

(3) 今後の大会開催予定について

- ・以下の予定が報告された。
第 150 回大会 (2015 年春季大会)：2015 年 6 月 20～21 日, 大東文化大学板橋キャンパス (大会実行委員長：福盛貴弘氏)
第 151 回大会 (2015 年秋季大会)：2015 年 11 月 28～29 日, 名古屋大学 (大会実行委員長：佐久間淳一氏)
第 152 回大会 (2016 年春季大会)：2016 年 6 月 (予定), 慶應義塾大学三田キャンパス (大会実行委員長：井上逸兵氏)
第 153 回大会 (2016 年秋季大会)：2016

年 12 月 3～4 日 (予定), 福岡大学
第 154 回大会 (2017 年春季大会)：2017 年 6 月 (予定), 首都大学東京
第 155 回大会 (2017 年秋季大会)：2017 年 11 月 (予定), 立命館大学衣笠キャンパス

(4) 2014 年科学研究費研究成果公開促進費について

- ・収支簿および実績報告書について, 領収書並びに支払い記録等, 関係証票書類に基づき監査の結果, 適正に処理されていたという報告が事務局長によってなされた。

(5) 2015 年度科学研究費研究成果公開促進費について

- ・採択されなかった旨が事務局長より報告された。

(6) 各種委員会からの報告

- ・本彙報の各委員会の項目を参照。

(7) 言語系学会連合からの報告

- ・言語系学会連合運営委員である小林正人氏より 5 月 10 日に運営委員会が行われたこと, 6 月 20 日に加盟学会の意見交換会が行われる予定であることが報告された。

(8) 日本言語学会大会発表賞の選考結果について

- ・大会発表賞選考小委員会の推薦に基づいて第 149 回大会 (2014 年秋季大会) における大会発表賞が以下のように決定したことが報告された。

曾根雅輝氏(共同発表者：広瀬友紀氏)「名詞複合語濁連生起における, アクセント変化および同一モーラ連続の影響：発語実験による検討」

(9) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトの事後評価について

- ・プロジェクト代表者により提出された研究報告書および経理報告書の確認を行い, 問題がなかったことが報告された。

[審議事項]

(1) 常任委員の役割分担について

- ・今期の常任委員の役割分担について, 確

- 認・承認がなされた。
- (2) 「学会賞委員会」(仮称)の構想およびワーキンググループについて
- ・現在の「論文賞選考小委員会」「大会発表賞選考小委員会」を解散し、2016年度より常設の「学会賞委員会」を設置し、あわせてその準備のためのワーキンググループを設けることを決定した。
- (3) 80周年記念事業と準備ワーキンググループについて
- ・2018年に80周年記念事業を行うことと、そのための準備ワーキンググループを設けることを決定した。
- (4) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトについて
- ・松岡和美氏から申請のあった「ろう者と聴者が協働する手話言語学ワークショップ」の採択を決定した。
- (5) 東日本大震災の被災会員に対する会費免除について
- ・今年度より会費免除措置を廃止することを決定した。
- (6) CIPLへの代表者および文献リスト作成作業について
- ・CIPL日本代表者は引き続き田窪行則氏とし、文献リスト作成については平子達也氏に責任者を依頼することを決定した。文献リストは日本言語学会が主体となって作成し、学会ホームページ等で発信することを決定した。
- (7) ろう者への対応について
- ・ろう者に対し手話通訳、ノートテイキングの支援を行うことを決定し、申し合わせを定めた。
- (8) 事務局委員他への謝金について
- ・事務局委員他への謝金について検討し、一部変更することを決定した。
- (9) 2014年度決算について
- ・2014年度決算書を検討し、それを承認した。
- (10) 2015年度予算について
- ・2015年度予算について審議し、予算案を作成した。
- (11) 記念大会積立金の用途について

- ・記念大会積立基金からの100万円について、第150回大会の開催費および150回大会記念フォーラム「日本言語学会の回顧と展望」の記録とその発信に使用することを決定した。
- (12) 『言語研究』と大会予稿集のバックナンバーの処分について
- ・『言語研究』バックナンバーの残部は大会において無料配布し、大会予稿集のバックナンバー残部は廃棄することを決定した。
- (13) 他学会からのホームページ掲載依頼について
- ・学会ホームページ掲載の方針を定め、それに従い掲載を行うことを決定した。
- (14) 2016年度科学研究費補助金研究成果公開促進費(国際情報発信強化)の応募について
- ・今年度も応募することを決定した。
- (15) 会員メールマガジンの開始について
- ・会員メールマガジンは、準備が整い次第運用を開始することを決定した。
- (16) シニア会員(会費)の設定について
- ・シニア会員(会費)の設定の要望が会員から出ていることが報告され、継続審議とすることを決定した。
- (17) オンライン会員情報管理システム(e-naf)の会員名簿相互検索機能について
- ・オンライン会員情報管理システム(e-naf)に会員相互の検索機能を加え、今年度から運用を開始することを決定した。
- (18) 「大会発表賞申し合わせ」修正案について
- ・大会発表賞選考小委員会による修正案を検討し、承認した。

——評議員会——

2015年度第1回評議員会

日時：2015年6月20日(土)10:00～12:40

場所：大東文化大学2号館2階大会議室

出席者：窪蘭晴夫(会長)、加藤重広、佐々木冠、

生越直樹, 小野尚之, 小泉政利, 後藤 齊, 池田 潤, 井上 優, 上野善道, 大堀壽夫, 風間伸次郎, 菊地康人, 北原久嗣, 木部暢子, 澤田英夫, 滝浦真人, 長屋尚典, 野田尚史, 長谷川信子, 林 徹, Prashant Pardeshi, 松森晶子, 峰岸真琴, 三宅知宏, 鷺尾龍一, 渡辺 己, 呉人恵, 斎藤 衛, 佐久間淳一, 玉岡賀津雄, 新田哲夫, 堀江 薫, 有田節子, 上田功, 梶 茂樹, 金水 敏, 工藤真由美, 定延利之, 沈 力, 田窪行則, 千田俊太郎, 藤代 節, 益岡隆志, 由本陽子, 吉田和彦, 米田信子, 桐生和幸, 塚本秀樹, 辻 星児, 宮崎和人, 青木博史, 江口 正, 狩俣繁久, 金 智賢, 平子達也 (以上, 評議員 55 名)

委任状: 11 名

オブザーバー: 久保智之 (会計監査委員), 須田孝司 (広報委員長), 金城由美子, 内藤真帆 (以上, 事務局委員)

議事に先立ち, 大会実行委員長の福盛貴弘氏より挨拶があり, ついで出席者の紹介が行われた。

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・現在の組織・役員・任期が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第 151 回大会 (2015 年秋季大会): 2015 年 11 月 28 ~ 29 日, 名古屋大学 (大会実行委員長: 佐久間淳一氏)
 - 第 152 回大会 (2016 年春季大会): 2016 年 6 月 (予定), 慶應義塾大学三田キャンパス (大会実行委員長: 井上逸兵氏)
 - 第 153 回大会 (2016 年秋季大会): 2016 年 12 月 3 ~ 4 日 (予定), 福岡大学
 - 第 154 回大会 (2017 年春季大会): 2017 年 6 月 (予定), 首都大学東京
 - 第 155 回大会 (2017 年秋季大会): 2017 年 11 月 (予定), 立命館大学衣笠キャンパス

- (3) 2014 年度科学研究費研究成果公開促進費について
 - ・収支簿および実績報告書について, 領収書並びに支払い記録等, 関係証券書類に基づき監査の結果, 経理担当者定延利之氏により適正な処理と認められたとの報告がなされた。
- (4) 2015 年度科学研究費研究成果公開促進費について
 - ・今年度は不採択であったとの報告がなされた。
- (5) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (6) 言語系学会連合からの報告
 - ・小林正人氏の代理として井上優氏より言語系学会連合運営委員会の議題について説明があり, 来年度は日本言語学会が幹事学会となるので, シンポジウム等を立案する必要があるとの報告がなされた。
- (7) 日本言語学会大会発表賞の選考結果について
 - ・大会発表賞選考小委員会の推薦に基づいて第 149 回大会 (2014 年秋季大会) における大会発表賞が以下のように決定したことが報告された。
 - 曾根雅輝氏 (共同発表者: 広瀬友紀氏)「名詞複合語連濁生起における, アクセント変化および同一モーラ連続の影響: 発話実験による検討」
- (8) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトの選考結果について
 - ・松岡和美氏から申請のあった「ろう者と聴者が協働する手話言語学ワークショップ」が採択されたことが報告された。
- (9) 言語系学会連合運営委員の選考について
 - ・今年度は小林正人氏が日本言語学会選出の運営委員として, 言語系学会連合の運営委員会副委員長を務めていることが報告された。
- (10) 日本言語学会論文賞選考小委員会委員の選考について
 - ・「日本言語学会論文賞」規程に従い, 6 名に委嘱したことが報告された。

- (11) 日本言語学会大会発表賞選考小委員会委員の選考について
- ・「日本言語学会大会発表賞」規程に従い、4名に委嘱したことが報告された。
- (12) 『言語研究』と大会予稿集のバックナンバーの処分について
- ・『言語研究』バックナンバーの残部は大会において無料配布すること、大会予稿集バックナンバーの残部については廃棄することが報告された。
- (13) 2016年度科学研究費補助金研究成果公同促進費（国際情報発信強化）
- ・今年度も応募する予定であることが報告された。
- (14) 各種申し合わせの変更について
- ・大会発表賞について、原則として40歳以下の者に審査を依頼しないことが報告された。
 - ・聴覚障害を有する会員支援に関する申し合わせについて、報告がなされた。

〔審議事項〕

- (1) 今期選挙管理委員の選出
- ・選挙規則に基づき投票した結果、下記の8名が選挙管理委員として選出された。
井上優（麗澤大学）、風間伸次郎（東京外国語大学）、杉岡洋子（慶應義塾大学）、滝浦真人（放送大学）、竹沢幸一（筑波大学）、中川裕（千葉大学）、長谷川信子（神田外語大学）、林徹（東京大学）。なお辞退者が出た場合には、河内一博（防衛大学校）、木部暢子（国立国語研究所）、荻野綱男（日本大学）の三氏をこの順で選挙管理委員とすることが決定された。
- (2) 学会賞小委員会の廃止と「学会賞委員会」（仮称）の設置について
- ・現在の「論文賞選考小委員会」「大会発表賞選考小委員会」を解散し、2016年度より常設の「学会賞委員会」を設置し、あわせてその準備のためのワーキンググループを設けることが承認された。
- (3) 80周年記念事業と準備ワーキンググループについて
- ・2018年に80周年記念事業を行うことと、

そのための準備ワーキンググループを設けることが承認された。

- (4) 東日本大震災の被災会員に対する会費免除について
- ・今年度より会費免除措置を廃止することが承認された。
- (5) CIPLへの代表者および文献リスト作成作業について
- ・CIPL日本代表者は引き続き田窪行則氏とし、文献リストについては平子達也氏に責任者を依頼することが承認された。文献リストは日本言語学会が主体となって作成し、学会ホームページ等で発信することが承認された。
- (6) 会員メールマガジンの開設について
- ・会員メールマガジンを開設することが承認された。
- (7) オンライン会員情報管理システム（e-naf）の会員名簿相互検索機能について
- ・オンライン会員情報管理システム（e-naf）に会員相互の検索機能を加え、今年度から運用を開始することが承認された。
- (8) 紙媒体の会員名簿について
- ・オンライン会員情報システム（e-naf）に会員名簿相互検索機能が加えられたことに伴い、紙媒体の会員名簿を廃止することが承認された。
- (9) 2014年度決算について【別表1参照】
- ・2014年度決算案について説明がなされた後、井上優会計監査委員より適正との報告があり、原案通り承認された。
- (10) 2015年度予算について【別表2参照】
- ・2015年度予算案について検討を行った結果、一部修正のうえ承認された。
- (11) シニア会員（会費）の設定について
- ・シニア会員（会費）の設定について検討した結果、継続審議とすることが決定した。
- (12) 大会予稿集の電子媒体（PDF）化について
- ・紙媒体の大会予稿集を廃止し、電子媒体（PDF）化して学会ホームページで公開

することが承認された。実施の時期を含め詳細については常任委員会および大会運営委員会で検討し、2015年秋の評議員会で決定することが承認された。

——編集委員会——

2015年度第1回編集委員会

日時：2015年5月3日(木) 14:00～16:30

場所：大阪大学(豊中キャンパス)文学研究科 中庭会議室

出席者：家入葉子, 上田 功, 江口 正, 風間伸次郎, 金水 敏(委員長), 酒井 弘, 滝浦真人, 松森晶子, 村杉恵子, 吉村公宏, 米田信子

オブザーバー：依田恵美(編集委員長補佐)

※その後のメール審議の内容も含めて報告します。

[審議事項]

- (1) 前期委員会よりの引き継ぎ事項と編集・発行の状況について
 - ・標記の件について委員長より報告があった。
- (2) 特集テーマについて
 - ・第150号(2016年10月刊行予定)の特集を「日本語アクセント記述研究の新展開」とすることを決定した(本誌246頁参照)。第152号, 第154号の特集については、「情報構造」「言語獲得」「生成文法理論」等で現在調整中。
- (3) 特別編集委員
 - ・特集テーマと関連づけて委員より挙げられた候補者名について検討し, 候補を絞り込んだ。推薦者の委員がそれぞれの候補者に打診を始めることとした(現在決定している委員は表紙裏の委員一覧を参照)。
- (4) 担当編集委員の割り当てについて
 - ・現在, 担当編集委員が決まっていない8本の論文・フォーラムについて, 担当者を決めた。
- (5) 論文賞選考小委員会への委員の推薦
 - ・委員の内1名を論文賞選考小委員会委員

に推薦した。

(6) その他

- ・編集作業のスピードアップの工夫, 審査報告書の改訂, 投稿テンプレートの作成, 広報委員会との連携のあり方等について種々話し合った。

——大会運営委員会——

2015年度第1回大会運営委員会

日時：2015年4月5日(日) 11:00～16:00

場所：大東文化大学 板橋校舎2号館 20221会議室

出席者：青木博史(大会運営委員長), 河内一博, 芝垣亮介, 張麟声, 本間 猛, 宮本陽一, 小野寺典子, 佐々木冠, 千田俊太郎, 塚本秀樹, 渡辺 己(以上, 大会運営委員), 福盛貴弘(大会実行委員長), 大島吉郎, 桐越 舞(以上, 大会実行委員)

[報告事項]

- (1) 以下の3点につき, 大会運営委員長より報告がなされた。
 - ・任期満了にて退任する6名の委員に交代する次期大会運営委員について, 以下の方々に委嘱した。
内海敦子(明星大学), 越智正男(大阪大学), 沈力(同志社大学), 田村幸誠(大阪大学), 新田哲夫(金沢大学), 三宅知宏(鶴見大学)
 - ・次期大会運営委員長として, 佐々木冠氏を会長に推薦した。
 - ・2015年度大会発表賞選考小委員会委員について, 大会運営委員会からの候補者を会長に推薦した。
- (2) 第150回大会(大東文化大学)の準備状況につき, 大会実行委員長より報告がなされた。

[審議事項]

- (1) 第150回大会における研究発表の採否について審議した。応募要旨の審査結果に基づき, 口頭発表56件(応募83件, ただし後日1件取り消し), ポスター発

- 表3件(応募3件)を採択した。
- (2) プログラムの編成を行った。口頭発表は7会場×8本とし、各発表の振り分け、会場担当の委員ならびに司会者候補を決定した。
 - (3) ウェブページからの発表応募について、締切日のみ記すのではなく、「受付期間」を記すこととした(3月および8月の1日～20日。日付も当面、固定する)。
 - (4) 大会発表応募時における「発表要旨」と、採択後ホームページおよび『言語研究』に掲載される「大会発表要旨」を応募者が混同している可能性があるという問題について検討した。「大会発表要旨」およびホームページ上の「発表応募手続き」「発表申込書」に示される、応募時における「発表要旨」にはすべて「発表要旨(応募用)」と記すことにするという案をまとめた。
 - (5) 予稿集の形式について検討した。紙媒体から電子媒体へ移行する際のメリット・デメリット、予稿集をとりやめた場合の参加費徴収の方法などについて議論した。

[会場視察および打合せ]

- (1) 大会実行委員長より説明を受け、会場予定の学舎、講義室などを見学した。シンポジウム・口頭発表・ポスター発表会場、受付、書店展示、保育室、休憩室、懇親会などの各種会場の設営・運営の準備状況について確認、検討を行った。

——広報委員会——

- ・ 新年度に合わせ、学会ホームページの会長挨拶や組織・役員等一覧の更新を行った。
- ・ 『言語研究』第146,147号の刊行にともなって、目次と論文要旨のページを更新するとともに、第145号までに掲載された論文の全文をダウンロードできるようにした。
- ・ 第150回大会に関連する情報を逐次学会ホームページに掲載した。
- ・ 他団体・他学会から論文投稿の募集や大会

情報の掲載が依頼された際の対応について協議を行い、他団体・他学会からの情報はトップページではなく、学会関連ニュース内に掲載することにした。

——夏期講座委員会——

2015年度夏期講座委員会

日時：2015年6月19日13:00～16:20

場所：北海道大学東京オフィス大会議室

出席者：加藤重広(委員長)、小野創、佐久間淳一、西村義樹、宮本陽一

- (1) 夏期講座2016を、大阪大学で2016年8月23日(火)から28日(日)まで開催することとし、開講科目と講師候補を確定した(実行委員長・宮本陽一氏)。
- (2) 夏期講座2016の関連企画として特別講演を前回に引き続き、開催することとし、講師候補を確定した。
- (3) 宮本委員より会場校の準備状況が報告され、現状で大きな問題がないことが確認された。
- (4) 実行委員会の引き継ぎ、会員参加者の参加費を割り引く方向で準備を進めることを確認した。2018年の夏期講座は首都圏開催を念頭に準備を進めることとした。
- (5) 加藤委員と西村委員の後任に、渡辺己氏(東京外国語大学)と本多啓氏(神戸市外国語大学)が承認されたこと、次期委員長は佐久間委員に委嘱されることが報告された。

——小委員会——

論文賞選考小委員会

- ・ 2015年6月21日(日)に大東文化大学板橋キャンパスにおいて2015年度第1回の会合を開き、2015年度の論文賞の第一次選考を行い、今後の審査手順を確認した。

大会発表賞選考小委員会

- ・ 2015年5月16日(土)にホテルコンソルト新大阪において2015年度第1回の会合

を開き、第150回大会（大東文化大学）の大会発表賞の審査基準・審査方法を確認し、審査対象となる研究発表と審査手順を決定した。

- ・2015年7月11日（土）にコンベンションルーム AP 大阪梅田茶屋町において第2回の会合を開き、第150回大会（大東文化大学）の大会発表賞の受賞候補となる研究発表を選考し、受賞理由の文案を作成した。その結果を7月14日（火）に会長へ報告した。

——事務局——

2014年度会計監査

日 時：2015年5月15日（金）15:00～17:00
場 所：日本言語学会事務支局（中西印刷学会フォーラム）

出席者：井上 優、金水 敏（以上会計監査委員）、梶 茂樹（会長）、吉田和彦（事務局長）、国料尚子（事務支局）

井上優、金水敏両委員により2014年度決算書と関係書類について監査が実施された。

2014年度科学研究費研究成果公開促進費の監査

2014年度科学研究費研究成果公開促進費の監査が、常任委員の経理担当者である定延利之氏により実施され、適正との報告があった（2015年5月8日（金）、神戸大学）。

『言語研究』147号掲載の彙報に関する訂正

『言語研究』147号の106頁に示されている評議員会出席者（オブザーバー）の欄に誤字がありました。お詫びして以下のとおり訂正します。

福森貴弘→福盛貴弘

【別表 1】2014 年度日本語学会決算

自 2014 年 4 月 至 2015 年 3 月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,001,000	刊 行 費	4,236,624
雑 誌 売 上	1,309,400	発 送 費	549,461
科学研究費補助金	3,800,000	事 務 委 託 費	4,406,400
科学研究費補助金利息	369	大 会 関 係 費	4,180,817
預 金 金 利	1,935	評 議 員 会 費	190,456
大会関係収入	1,816,000	常 任 委 員 会 費	574,010
広 告 料	110,000	編 集 委 員 会 費	620,978
寄 付 金	150,000	大 会 運 営 委 員 会 費	782,615
雑 益	4,628	広 報 委 員 会 費	672,912
基金から繰入	3,200,000	夏 期 講 座 委 員 会 費	11,580
夏期講座準備金返納	0	事 務 局 費	771,620
		学 会 賞 費	150,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	409,200
		夏 期 講 座 経 費	1,514,666
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		C I P L 言 語 学 文 献 一 覧 編 集 補 助 費	174,260
		通 信 費	523,371
		消 耗 品 費	304,807
		雑 費	2
		名 簿 作 成 費	1,552,664
		選 挙 関 係 費	833,614
		税 理 士 顧 問 料	421,200
		学 会 賞 小 委 員 会 費	138,413
		法 人 税	70,000
		予 備 費	270,000
		(基金への繰入)	
		名 簿 作 成 積 立 金	0
		選 挙 関 係 積 立 金	0
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	0
収 入 合 計	23,393,332	支 出 合 計	24,029,670
前 期 繰 越 金	8,315,600	次 期 繰 越 金	7,679,262
計	31,708,932	計	31,708,932

◇収入内訳（単位：円）

会費

国内通常会員	11,419,000
国内維持会員	80,000
国内学生会員	708,000
国内団体会員	623,000
国内賛助会員	30,000
在外通常会員	133,000
在外学生会員	8,000

合 計	13,001,000
-----	------------

雑誌売上

書店販売	1,301,400
松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	910,800
丸善	321,300
その他書店	69,300
事務局販売	8,000

合 計	1,309,400
-----	-----------

科学研究費補助金

3,800,000

科学研究費補助金利息

369

預金金利

1,935

大会関係収入

大会出店料	165,000
148 回大会 1 スペース 1 日（1 社）	5,000
1 スペース 2 日（7 社）	70,000
2 スペース 2 日（1 社）	20,000
149 回大会 1 スペース 2 日（5 社）	50,000
2 スペース 2 日（1 社）	20,000
予稿集売上	1,645,500
148 回大会時売上	1,076,000
149 回大会時売上	526,000
事務局売上（バックナンバー）	43,500
託児関係収入	5,500

合 計	1,816,000
-----	-----------

広告料

110,000

寄付金

150,000

雑益（145 号発送費未払金との差額）

4,628

基金からの繰入

3,200,000

◇支出内訳（単位：円）

刊行費

内 訳	146 号 (234 p.)	印刷部数 147 号 (146 p.)	各号共に 2,300 部 計 (380 p.)
印刷費	2,293,920	1,905,120	4,199,040
抜刷代	18,792	18,792	37,584
合 計	2,312,712	1,923,912	4,236,624

※割付・校正料は印刷費に含む

発送費

『言語研究』一斉発送料	146 号	309,461
	147 号	240,000
合 計		549,461

事務委託費

2014 年 4 月分～2015 年 3 月分
日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

4,406,400

大会関係費

内 訳	第 148 回	第 149 回	計
プログラム印刷費	108,000	108,000	216,000
ポスター印刷費	112,320	112,320	224,640
予稿集印刷費	925,560	871,560	1,797,120
その他印刷費 / 備品	40,759	32,076	72,835
大会関係発送費	189,332	192,658	381,990
大会費	473,009	707,131	1,180,140
講師謝金等	70,000	50,000	120,000
託児関係費	29,992	0	29,992
手話通訳謝礼	0	42,500	42,500
大会実行委員長経費補助	30,000	30,000	60,000
ノートテイキング補助	20,000	14,000	34,000
応募フォーム移行及び管理費	10,800	10,800	21,600
合 計	2,009,772	2,171,045	4,180,817

※ポスター印刷費はポスターデザイン代を含む。

評議員会費

会議費（年 2 回） 190,456

常任委員会費

旅費（年2回）	495,430
会議費	78,580

合 計	574,010
-----	---------

編集委員会費

旅費（年2回+出張校正等）	41,378
会議費（年2回）	0
英文校閲費	99,600
アルバイト費（編集補助）	480,000
通信費	0

合 計	620,978
-----	---------

大会運営委員会費

旅費（年2回）	663,281
会議費（年2回）	29,334
委員長業務補助	90,000

合 計	782,615
-----	---------

広報委員会費

ホームページ保守管理費	162,000
リンク切れ確認作業費	162,000
英語目次作成	276,912
webmaster 経費補助	72,000

合 計	672,912
-----	---------

夏期講座委員会費

旅費	11,580
----	--------

事務局費

旅費（会計監査, 出張費）	171,620
事務局長, 事務局委員活動費	600,000

合 計	771,620
-----	---------

学会賞費

論文賞副賞	100,000
発表賞副賞	50,000

合 計	150,000
-----	---------

多様性プロジェクト（公募型）費

409,200

夏期講座経費

夏期講座経費	1,200,000
夏期講座経費補助	314,666

合 計	1,514,666
-----	-----------

言語系学会連合費

連合会費	50,000
------	--------

CIPL 負担金

2014 年度負担金	120,000
------------	---------

CIPL 言語学文献一覧編集補助費

174,260

通信費

切手購入、通常発送費	65,773
みずほ銀行ビジネス Web 使用料	25,860
会費請求・督促状送料	201,702
カード手数料・送金手数料・残高証明発行手数料	155,584
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料	30,406
大会関係送料（プログラム、ポスター以外）	30,361
その他（文科省提出書類発送等）送料	13,685

合 計	523,371
-----	---------

消耗品費

文房具購入費	9,806
振替用紙印刷費	62,262
封筒印刷費	216,539
事務処理票	16,200

合 計	304,807
-----	---------

雑費

内訳	金額
CIPL 負担金を替差損 *1	1
大会運営委員長補助作業費源泉税処理による差損 *2	1

合 計	2
-----	---

*1 予算額 120,000 円のところで、為替レートの都合で 120,001 円となったため、差額を計上した。

*2 当初、謝金として源泉税を差し引いて支払ったが、その後、給与扱いとし源泉税の処理を行わないこととしたため、源泉税額分を送金した際に生じた過払い

名簿作成費

1,552,664

選挙関係費	833,614
税理士顧問料	
顧問料	259,200
年末調整・法定調書作成	32,400
決算料	129,600
合 計	421,200
学会賞小委員会費	
旅費（年4回）	119,144
会議費（年4回）	19,269
合 計	138,413
法人税	
法人市民税	50,000
法人府民税	20,000
合 計	70,000
予備費	
夏期講座受付システム	270,000
基金への繰入	
多様性プロジェクト（公募型）積立金	500,000

◇ 2014 年度決算 予算・実績対照表

(単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
会 費	13,000,000	13,001,000	1,000
雑 誌 売 上	500,000	1,309,400	809,400
科学研究費補助金	3,800,000	3,800,000	0
科学研究費補助金利息	0	369	369
預 金 金 利	2,000	1,935	△ 65
大会 関係 収入	1,600,000	1,816,000	216,000
広 告 料	250,000	110,000	△ 140,000
寄 付 金	0	150,000	150,000
雑 益	0	4,628	4,628
基金 から 繰 入	3,200,000	3,200,000	0
夏期講座準備金返納	0	0	0
収 入 合 計	22,352,000	23,393,332	1,041,332
前 期 繰 越 金	8,315,600	8,315,600	0
合 計	30,667,600	31,708,932	1,041,332

(単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊 行 費	5,300,000	4,236,624	1,063,376
発 送 費	600,000	549,461	50,539
事 務 委 託 費	4,284,000	4,406,400	△ 122,400
大会 関係 費	4,500,000	4,180,817	319,183
評 議 員 会 費	300,000	190,456	109,544
常 任 委 員 会 費	800,000	574,010	225,990
編 集 委 員 会 費	1,400,000	620,978	779,022
大会運営委員会費	900,000	782,615	117,385
広 報 委 員 会 費	1,500,000	672,912	827,088
夏期講座委員会費	200,000	11,580	188,420
事 務 局 費	1,600,000	771,620	828,380
学 会 賞 費	400,000	150,000	250,000
多様性プロジェクト(公募型)費	500,000	409,200	90,800
夏 期 講 座 経 費	1,200,000	1,514,666	△ 314,666
言語系学会連合費	150,000	50,000	100,000
C I P L 負 担 金	120,000	120,000	0
C I P L 言語学文献一覧編集補助費	200,000	174,260	25,740
通 信 費	700,000	523,371	176,629
消 耗 品 費	400,000	304,807	95,193
雑 費	100,000	2	99,998
名 簿 作 成 費	2,400,000	1,552,664	847,336
選 挙 関 係 費	900,000	833,614	66,386
税 理 士 顧 問 料	0	421,200	△ 421,200
学会賞小委員会費	700,000	138,413	561,587
法 人 税	0	70,000	△ 70,000
予 備 費	1,013,600	270,000	743,600
(基金への繰入)			
名簿作成積立金	0	0	0
選挙関係積立金	0	0	0
多様性プロジェクト(公募型)積立金	500,000	500,000	0
夏期講座積立金	0	0	0
支 出 合 計	30,667,600	24,029,670	6,637,930
次 期 繰 越 金	0	7,679,262	△ 7,679,262
合 計	30,667,600	31,708,932	△ 1,041,332

◇資産勘定

2015年3月31日(単位:円)

借方	金額	貸方	金額
事務支局		前受会費	
現金	12,417	国内通常	108,000
みずほ銀行口座	3,898,250	国内学生	64,000
郵便振替口座	8,044,004	国内団体	0
科研費口座	2,827,356	在外個人	0
カード	0	在外学生	4,000
夏期講座委員会口座	315	前受購読料	7,000
未収金*	1,030,853	未払金**	7,901,925
		源泉税預り金	49,008
		次期繰越	7,679,262
計	15,813,195	計	15,813,195

* 未収金は当該年度内の収入の回収が間に合わなかった場合の科目。

2014年度決算の未収金の内訳は以下の通り。

内 訳	金 額
広告料(会員名簿)	110,000
大会収入(出店料)	10,000
科学研究費補助金利息	53
雑誌売上(松香堂分)	910,800
合 計	1,030,853

** 未払金は当該年度内の支出が間に合わなかった場合の科目。

2014年度決算の未払金の内訳は次頁の通り。

内 訳	金 額
言語研究 146 号欧文ページ	903,960
言語研究 147 号欧文ページ	767,880
英文校閲 (Donna Erickson 様)	99,600
LB 作成費 (久保田様)	64,800
事務委託費 1 ～ 3 月	1,101,600
HP2014 年度	162,000
会費請求	7,020
事務処理票	16,200
長 3 窓付き封筒 1,000 枚	19,440
角 2 封筒 500 枚	10,800
言語研究 146 号和文ページ	1,389,960
言語研究 147 号和文ページ	1,137,240
税理士年末調整	32,400
税理士 1 ～ 3 月顧問料	64,800
税理士決算料	129,600
法人税	70,000
会員名簿	1,285,200
発送用角 3 封筒	30,780
言語研究 146 号 + 会員名簿発送費(国内)	258,687
言語研究 146 号発送費 (国内)	22,284
言語研究 146 号 + 会員名簿発送費(海外)	19,940
言語研究 146 号発送費 (海外)	8,550
言語研究 147 号送料	240,000
言語研究 146 号別刷	18,792
言語研究 147 号別刷	18,792
発表応募フォーム	21,600
合計	7,901,925

◇基金 決算

基金 損益計算書

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計（前期繰越）	13,802,710	一般会計へ支出	3,200,000
一般会計から繰入	500,000		
定期預金金利	766		
収入合計	14,303,476	支出合計	3,200,000
		次期繰越金	11,103,476
計	14,303,476	計	14,303,476

基金 資産勘定

2015年3月31日 (単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	7,300,000	積立金	11,103,476
京都銀行定期預金口座	3,803,476		
計	11,103,476	計	11,103,476

○基金内訳（目的別）

2015年3月31日 (単位：円)

記念大会積立金	3,400,201
夏期講座積立金	3,200,281
危機言語プロジェクト積立金	702,793
e-ジャーナル積立金	2,500,201
言語学普及積立金	500,000
多様性プロジェクト（公募型）積立金	800,000

計	11,103,476
---	------------

○基金内訳（銀行別）2015年3月31日（単位：円）

銀行名	預かり番号	名目	金額
京都銀行	003	記念大会積立金	1,000,201
みずほ銀行	038	〃	1,200,000
みずほ銀行	028	〃	400,000
みずほ銀行	025	〃	400,000
みずほ銀行	021	〃	400,000
みずほ銀行	057	夏期講座積立金	500,000
みずほ銀行	051	〃	700,000
みずほ銀行	035	〃	600,000
京都銀行	005	〃	1,400,281
みずほ銀行	039	危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	001	〃	402,793
京都銀行	004	e-ジャーナル積立金	1,000,201
みずほ銀行	044	〃	500,000
みずほ銀行	037	〃	1,000,000
みずほ銀行	047	言語学普及積立金	500,000
みずほ銀行	050	多様性プロジェクト（公募型）積立金	300,000
みずほ銀行	059	〃	500,000
		計	11,103,476

【別表2】2015年度日本語学会予算

自 2015年4月 至 2016年3月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,000,000	刊 行 費	4,500,000
雑 誌 売 上	1,000,000	発 送 費	600,000
科学研究費補助金	0	事 務 委 託 費	4,406,400
科学研究費補助金利息	0	大 会 関 係 費	5,400,000
預 金 金 利	1,500	評 議 員 会 費	300,000
大会関係収入	1,600,000	常 任 委 員 会 費	800,000
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	900,000
寄 付 金	0	大会運営委員会費	900,000
雑 収 入	0	広 報 委 員 会 費	400,000
雑 益	0	夏期講座委員会費	200,000
基金からの繰入	1,000,000	事 務 局 費	900,000
夏期講座準備費返納	0	学 会 賞 費	300,000
		多様性プロジェクト(公募型)費	500,000
		夏期講座経費	0
		言語系学会連合費	70,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		CIPL 言語学文献一覽編集補助費	200,000
		通 信 費	700,000
		消 耗 品 費	400,000
		雑 費	40,000
		名 簿 作 成 費	0
		選 挙 関 係 費	0
		税 理 士 顧 問 料	450,000
		学会賞小委員会費	400,000
		法 人 税	70,000
		予 備 費	924,362
		(基金への繰入)	
		名簿作成積立金	0
		選挙関係積立金	300,000
		多様性プロジェクト(公募型)積立金	0
		夏期講座積立金	500,000
		京都銀行定期(過年度分預け替え)	0
収 入 合 計	16,601,500	支 出 合 計	24,280,762
前 期 繰 越 金	7,679,262	収支差額(次期繰越金)	0
合 計	24,280,762	合 計	24,280,762

第 150 回大会

期日 2015 年 6 月 20 日 (土)・6 月 21 日 (日)

会場 大東文化大学

会長就任講演 6 月 21 日 (日) 14:00 ~ 15:00 (中央棟 1 階多目的ホール)

「日本語の方言研究と一般言語学」

窪菌 晴夫

シンポジウム 6 月 21 日 (日) 10:00 ~ 12:00 (中央棟 1 階多目的ホール)

「日中言語対照研究の現状と未来—両言語の交渉と研究の統合を視野に入れて—」

司会 竹島 毅

(S 1) 構文論からのアプローチ

田中 寛

(S 2) 連語論からのアプローチ

高橋弥守彦

(S 3) 言語意識のずれからのアプローチ

庵 功雄

(S 4) 言語類型論からのアプローチ

張 麟声

150 会大会記念フォーラム 6 月 21 日 (日) 15:15 ~ 17:00 (中央棟 1 階多目的ホール)

「日本語学会の回顧と展望」

司会 梶 茂樹

講師 柴谷方良, 早田輝洋, 上野善道, 影山太郎

口頭発表

—第 1 日 (6 月 20 日 (土)) 13:00 ~ 18:00—

。A 会場

- | | | | |
|-------|---------|---|----------------|
| (A 1) | 13:00 ~ | 日・韓・中のヴォイス体系に関する一考察—「働きかけの前景化・背景化」と「視点の固定化」の観点から— | 全 相律 |
| (A 2) | 13:35 ~ | アルタイ諸語, 朝鮮語, 日本語の従属節対格主語の機能について | 山崎 雅人 |
| (A 3) | 14:15 ~ | 現代朝鮮語の '-lyeko (hata)' に関する一考察—日本語の「~ようと (する)」との相違を中心に— | 平 香織 |
| (A 4) | 14:50 ~ | 16 世紀朝鮮語における形式名詞由来のモダリティ形式 | 小山内優子 |
| (A 5) | 15:40 ~ | コーパスを用いた現代日本語における「が／を交替」の実証的研究 | 佐野真一郎
南部 智史 |
| (A 6) | 16:15 ~ | 大正・昭和前期の「が／の」交替に関するコーパスを用いた研究 | 南部 智史 |
| (A 7) | 16:55 ~ | 大主語構文におけるガ・ノ交替: 長崎方言からの考察 | 猿渡 翌加 |
| (A 8) | 17:30 ~ | 日本語のガ・ノ交替の統語論と意味論—ドイツ語との対照を交えて | 伊藤 克将
森 芳樹 |

。B 会場

- | | | | |
|-------|---------|---------------------------------|--|
| (B 1) | 13:00 ~ | 終助詞「ね」の変容性と心の理論: 事象関連電位による探索的研究 | 木山 幸子
リスス フェアドンスコット
熊 可欣
カリンカ ティマー
玉岡賀津雄 |
| (B 2) | 13:35 ~ | Semantic LAN 現象からみる日本語の文理解モデル | 矢野 雅貴 |

- (B 3) 14:15 ~ 日本語の分裂文処理における確率論的要因の検討
カフラマン バルシュ
広瀬 友紀
- (B 4) 14:50 ~ 日本語の二重目的語構文における文理解の難易度につ 滝本 宮美
いて—ニ格名詞の有生性に着目して— カフラマン バルシュ
広瀬 友紀
- (B 5) 15:40 ~ 熊本方言における接辞 -ar について 坂井 美日
- (B 6) 16:15 ~ 北海道方言ラサルの認可条件再考 並木翔太郎
- (B 7) 16:55 ~ 琉球与那国語の敬語体系 山田 真寛
- (B 8) 17:30 ~ (Non)-Exhaustivity of *Dake* 'only' Satoshi TOMIOKA
- 。C会場
- (C 1) 13:00 ~ 「視点固定型／移動型言語」の議論の再検討 古賀悠太郎
- (C 2) 13:35 ~ インドネシア・フィリピンの諸言語における情報構造 内海 敦子
の分析
- (C 3) 14:15 ~ 共同注意の確立過程における聞き手の負荷と話し手による 平田 未季
指示詞の質的素性の選択
- (C 4) 14:50 ~ 英語の結果構文の認知プロセス—焦点連鎖の観点か 菊池 由記
ら—
- (C 5) 15:40 ~ Phonetic properties of nuclear prominence Yoshihisa KITAGAWA
in Japanese Shinichiro ISHIHARA
Shigeto KAWAHARA
- (C 6) 16:15 ~ 日本語複合語アクセント規則の違反に関わる ERP 研究 小林 由紀
広瀬 友紀
伊藤たかね
- (C 7) 16:55 ~ 三重県尾鷲方言のアクセント体系における‘第三の式’ 平田 秀
の発生について
- (C 8) 17:30 ~ 八重山諸島黒島アクセントの仕組み—その韻律範疇と 松森 晶子
下がり目の出現条件—
- 。D会場
- (D 1) 13:00 ~ タガログ語の naka- 結果状態構文 長屋 尚典
- (D 2) 13:35 ~ ハンガリー語における -va 構文の解釈について 梅田 遼
- (D 3) 14:15 ~ 文化化における論理的意味と非論理的意味—「行く」 新井 文人
「来る」の文化化を例に— 日高 俊夫
- (D 4) 14:50 ~ 程度性を含む形容詞の意味処理過程に関する研究 田村 彩香
酒井 弘
- (D 5) 15:40 ~ 現代日本語における進展的状态変化自動詞の事象投射 小西 正人
構造
- (D 6) 16:15 ~ 習慣文のAspect形式と意味解釈—単純ル形とテイ 鈴木 彩香
ル形の対立を中心に—
- (D 7) 16:55 ~ Japanese Modified Numerals and Ignorance Inference Hitomi HIRAYAMA
- (D 8) 17:30 ~ 手話言語の動詞一致のメカニズム 川崎 典子

◦ E 会場

- (E 1) 13:00 ~ Phase-Cancellation by Pair-Merge Samuel D. EPSTEIN
Hisatsugu KITAHARA
T. Daniel SEELY
- (E 2) 13:35 ~ Extraction out of English VP-ellipsis Sites: Yuta SAKAMOTO
The Overt/Null Contrast
- (E 3) 14:15 ~ 併合が探査を必要とするとき 後藤 亘
- (E 4) 14:50 ~ 日本語の時の副詞節の構造に関する考察 小田 博宗
- (E 5) 15:40 ~ 話し手・聞き手構造による force の決定 松田 麻子
- (E 6) 16:15 ~ ロシア語名詞句の統語構造：束縛現象からの検証 宮内 拓也
- (E 7) 16:55 ~ 特殊な性質を示す否定極性項目「何も」～「私は何も
テキーラが飲みたいのではない」の「何も」について
～ CP 地図化の観点からの分析 渡辺 敏久
- (E 8) 17:30 ~ 幼児による「しか…ない」の習得について 山腰 京子
近江 郁子
池田佳菜子
大庭 明莉

◦ F 会場

- (F 1) 13:00 ~ アイスランド語における無声歯茎ふるえ音の解釈につ
いて 三村 竜之
- (F 2) 13:35 ~ 英語の強勢付与における不透明性：調和的直列理論と
含有理論 橋本 大樹
- (F 3) 14:15 ~ スワヒリ語動詞の反復形—機能と派生の条件— 牧野 友香
- (F 4) 14:50 ~ Event cancellation and telicity in Tagalog Paul Julian SANTIAGO
- (F 5) 15:40 ~ ブルシャスキー語の空間参照枠 吉岡 乾
- (F 6) 16:15 ~ ヒンディ語の重層的格標示システム 中村 渉
- (F 7) 16:55 ~ ラワン語ダル方言における他動詞目的語の標示につい
て—対格後置詞 =səŋ が現れる要因— 大西 秀幸
- (F 8) 17:30 ~ カドゥー語諸方言におけるモークワン・カドゥー語の
位置について 藤原 敬介

◦ G 会場

- (G 1) 13:00 ~ Origins of alternation and variation: Mitsuya SASAKI
rethinking the “Urban Nahuatl” hypothesis
- (G 2) 13:35 ~ 宜蘭クレオール動詞の形態素 簡 月真
- (G 3) 14:15 ~ 中国西南部チベット＝ビルマ系言語における漢語文末
助詞 ba の借用—ダバ語とカム・チベット語を中心に— 白井 聡子
- (G 4) 14:50 ~ コプト語サイド方言における二重冠詞 宮川 創
- (G 5) 15:40 ~ 祖語の声調の調値復元アルゴリズム—桂南平語を例と
して 濱田 武志
- (G 6) 16:15 ~ オスク語における母音挿入とシンコピーの相対年代 大西 貞剛
- (G 7) 16:55 ~ 契丹語における性・数の一致と文法的性の存在 大竹 昌巳
- (G 8) 17:30 ~ ツングース諸語において祖形 *ks が仮定される音対応
について 風間伸次郎

ポスター発表

—第2日（6月21日（日））12:10～13:10（3号館1階3-0106/7教室）—

(P 1) 「長距離例外的格付与」構文について

橋本 将

(P 2) 古代エジプト語神官文字資料のコーパス作成とその利用：“外字”
で書かれた文字言語のドキュメンテーション化の試み

永井 正勝

和氣 愛仁

高橋 洋成

(P 3) セデック語パラン方言の二重母音について

落合いずみ

◇退 会

国内通常会員：9名

国内維持会員：1名

国内学生会員：3名

国内団体会員：3名

16名



◇本学会の委員（現評議員），常任委員を務められた田村すゞ子氏は，2015年8月3日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。